

論文要旨

氏名	黒岩 きりこ
タイトル (日英併記)	Effects of inhalation sedation with nitrous oxide on an intraoral senses 亜酸化窒素吸入鎮静法の口腔内感覚への影響
論文の要旨 (日本語で記載)	
<p>行動調整法の1つである亜酸化窒素による吸入鎮静法 (IS-N₂O) は、意識を保ったまま精神的緊張や恐怖心を和らげ、ストレスを軽減させ治療に協力できる鎮静状態や健忘効果を作り出す。歯科診療においても不安や恐怖感、緊張感などの負担を軽減し有効な健忘効果を持つことから、歯科恐怖症の発症を予防することが期待できる精神鎮静法の一つとされている。</p> <p>歯科恐怖を誘発する感覚として口腔内での触覚や味覚が報告されているが、IS-N₂O がこれらの感覚入力を抑制することがわかれば、誘発される歯科恐怖症の発症を軽減させ、歯科診療への受容を高める可能性を期待することができると考える。</p> <p>IS-N₂O は聴覚や触覚などへの効果も報告されているが、歯科医療に関連がある口腔内感覚の味覚や口腔粘膜での触覚への影響は明らかにされていない。よって本研究では、IS-N₂O のヒトでの口腔内感覚における味覚と触覚への影響を調査し、IS-N₂O がヒトの口腔内感覚に与える影響を調査することを目的とした。</p> <p>健康成人ボランティア 54 名を対象とし、各濃度での IS-N₂O 下に味覚検査として電気味覚診、ろ紙ディスク法を行い、触覚機能検査として Semmes-Weinstein Monofilaments (SWM) 検査を行った。</p> <p>結果、電気味覚検査、ろ紙ディスク検査および SW テスターにおいて IS-N₂O 使用により閾値が有意に増加した。</p> <p>以上のことから、IS-N₂O は口腔内の味覚と触覚の閾値上昇を引き起こすことがわかった。IS-N₂O により歯科恐怖の原因ともなる口腔内感覚を制御するという点で、IS-N₂O は歯科治療時において鎮痛、鎮静、健忘効果に加えて有効な手段となりうるが、今回は味覚と触覚の知覚低下が歯科恐怖症に与える影響について調査していないため、今後歯科恐怖症も含めた患者を対象に口腔内感覚に対する IS-N₂O の影響を調査する必要があると考える。</p>	